

新施設長にバトンが渡されました！

今年4月に、増井施設長が退任致しました。

増井前施設長は名張特養で40年の間、生活相談員、副施設長、施設長を歴任。「名張特養の生き字引」として職員に様々なことを教えてくれました。今後は、名張厚生協会の理事長に専念しこの名張特別養護老人ホームを支えてくれます。

そして、新たに田中施設長が就任いたしました。

若さと瞬発力・責任感を武器として、増井前施設長の「福祉イズム」を継承しながら新しい名張特養の「顔」として出発します！
皆さま、宜しくお願ひ致します。



田中施設長

増井理事長



「長い間お世話になりました」

名張特別養護老人ホーム

増井 明

増井 明

若い職員が力強く育つてきました。そろそろ「やましい先輩」は舞台から降りて囃子方（はやしかた）に廻らなければならぬ時がやつてきました。長い間、支えて下さった皆様に重ねて御礼申し上げ、引き続き職員の成長に力を貸し下さいますようお願い申し上げ、退任のご挨拶とさせて戴きます。有難うございました。

「小学生の時に、祖母に読んだ作文が面白い面白いと涙をためて笑ってくれた事が忘れられなくて、人の笑顔を求めて変なおじさんになってしまいました」 明です・・・。
 「小さい時は恥ずかしがり屋で、人前で喋ることが大の苦手だったと言うと、そんな欠片（かけら）は見当たらぬと言われました」 明です・・・。
 「ちょっと静かに！」と言われるほど大きな声で喋ります」 明です・・・。
 「沢山のお年寄りの方々とお会いし、様々な事を教えて頂きました。高齢になると困ること、嫌なこと、悲しいこと、嬉しいこと、本当に様々な事を教えて頂きました。人生の先輩に早くから生き方を教わり、強く優しい職員に育てて戴きました」 明です・・・。

新施設長ごあいさつ

「なばとく通信」愛読者の皆さん。元気にお過ごですか？

～～やっぱりこのフレーズから入らなアカン決まりになっています(笑)~~~~~

この度、4月1日より施設長に就任しました田中でございます。どうぞよろしくお願いいたします。現在、新型コロナウイルスの感染拡大により日常生活の制限をされています。入居者様や日夜介護をしている職員には感謝と敬意を表しますと共に、一日も早い収束を願っているところでございます。名張特別養護老人ホームといたしましても、昨年より施設の面会制限や各種ボランティア、業者等の出入り制限を行い職員の感染予防対策はもちろんのこと、感染源を持ち込まないための最大限の努力をさせていただいております。この間、入居者様、家族様にはご不便と大変淋しい思いをされていることと存じますが、どうか今しばらくご理解とご協力をお願い申し上げます。

さて今後のなばとく通信ですが、前施設長のような面白いことは書けませんし、ユニークな発想もございません。私は私なりに皆さんに何らかのメッセージを発信できたらと考えていますので、今後ともご愛読のほどどうぞよろしくお願ひいたします。

スタッフ 「えらいかしこまた挨拶やな～」

田中 「おれ、根が真面目やから」

スタッフ 「・・・」



Profile

田中 泰宏 (たなか やすひろ)

成人している二人の息子を持つ48歳。元消防署職員。家族に介護が必要となった為転職を決意。名張特養入社後、特養介護職員、みさと園相談員・事務員、コウセイ訪問介護事業所の管理者を経て、平成24年より副施設長兼ケアマネジャーに従事。熱意と、フットワークの軽さで利用者・職員より「名張特養の長男」のような存在としてリーダーシップを發揮中。



新旧 施設長に 質問 Q&A しました!!

名張厚生協会 増井理事長
名張特別養護老人ホーム 田中施設長

増井理事長

Q 福祉の仕事を選んだ理由

A 生まれ育った環境が一番大きな理由です。

戦後の鶴市から発展した大きな市場を中心に栄えた商売の町で生まれ育ちました。

商売の世界は競争社会で、成功する人もあれば失敗する人もあります。その影響は貧富の差として表れ、1日にして浮き沈みする生活を目の当たりにして育ちました。中でも一番影響を受けるのが、外国籍の方々や子供と高齢者です。経済的な支援を受けて生活をしなければならない級友の辛い姿を見ることがとても悲しかった事を思い出します。だから、悲しい姿を見なくてもよい社会にするにはと福祉科のある大学に進みました。

Q 名張特養での思い出

A 利用者の方々と過ごした時間すべてが思い出です。お年寄りの方々に嫌われないように対応したことが、疑似的な恋愛感情になり、話もして頂けないことや利用者さん同士が修羅場になった苦い思い出などを懐かしく思い出します。

Q 名張特養の自慢できるところ

A 一人一人の利用者さんやご家族に向き合う姿勢が職員にあるところです。

もちろん、経験や努力の程度に依って各々の力量は違いますが、私が一番自慢したいところです。

Q 田中施設長に期待すること

A 「負けず嫌い」が仕事の原動力となっているところがすごいと思います。柔道の教えに「柔よぐ剛を制す」という言葉がありますが、「柔弱なものが、却って剛強なものに勝つ」という意味ですが、アンガーマネジメントを駆使する管理者になって下さることを期待しています。田中施設長に贈ります。福祉の「強さ」のパロメーターは、限りない「優しさ」です。

田中施設長

Q 趣味・特技を教えて下さい

A 特技とは言えませんがスポーツ全般です。やることももちろん観戦も好きで、とにかく何かに取り組む姿勢や一生懸命さが大好きです。20代の頃に「ダンドラーズ」という野球チームを結成し、その後にソフトバレー ボールに移行しました。地元の大会に年に数回出場し、終わってからの達成感が半端ないです。現在はもっぱら個人競技のマラソン、ゴルフで達成感の余韻に浸っています。

Q 仕事後や休日はどのように過ごされていますか

A 帰宅後は宅飲みで仕事のクールダウン

休日：午前中は家事（特にアイロン掛けや掃除洗濯をまとめてやる）

午後からは自分の時間（撮りためた番組やゴルフ等のスポーツ観戦）

Q ここまでどのような志でこられましたか

A これまで、最新の介護技術や介護方法、サービスの質を低下しないようにとにかく勉強しそれを実施してきました。そして、施設は「施設長以上の施設にならない」とも言われています。今まで通り自己研鑽し器を広げたいと思っています。

Q これから、どのような事に力を入れてどんな名張特養にしていきたいですか

A 直近の目標は経営安定化とユニット型施設としての取組みです。（一斉介護ではなく一人一人に応じたケア）長期的な目標は今後、超少子高齢社会の中、働き手が少なくなります。様々なアイディアや取り組み（例えば、介護ロボ・ICTやAI機能、外国人労働者等）をしながら社会資源の使命を果たしたいと思います。